

Course number		U-LAS01 10001 LJ38				
Course title (and course title in English)	日本史Ⅰ Japanese History I			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Research in Humanities Assistant Professor, IKEDA SANAE Graduate School of Global Environmental Studies Professor, TAKASHINA ERIKA Institute for Research in Humanities Assistant Professor, KIKUCHI AKIRA	
Group	Humanities and Social Sciences		Field(Classification)	History and Civilization(Foundations)		
Language of instruction	Japanese		Old group	Group A	Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・First semester
Days and periods	Mon.2		Target year	All students	Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]						
<p>近代から現代にかけての日本の歴史から3つのテーマをとりあげ、リレー式で講義を行う。</p> <p>まず、歴史の軸となる政治史の中の明治立憲政治に着目し、近代国家へと歩みを進める政治的過程を最新の史料を読み解きつつ理解する。</p> <p>次に、視点を変えて美術の側面における日本の近代化を実際の作品に則して考える。芸術の発展は社会の変化と密接な関係があり、明治維新时期はとりわけ西洋の影響により日本の美術に大きな変化が生じた。</p> <p>最後に、近代から現代にかけて京都の中でも文化的エリアとしてさまざまな活動の場となった「左京」という身近なテーマに焦点を当て、今ここで学ぶ私たちにとっての歴史とは何か、その意味を問う。</p> <p>3つのテーマを通して、政治・芸術・学問における日本の近代化の流れを確認し、知識だけではない現代につながる歴史について理解を深める。</p>						
[Course objectives]						
<p>近代の最も大きな変革期であった明治期以降の政治・社会・文化について歴史史料や視覚資料にもとづいて理解し、現在につながる日本の近現代史についての幅広く多様な視点の獲得をめざす。</p>						
[Course schedule and contents)]						
3名の講師が日本の近現代史に関連するそれぞれのテーマで各4～5回の講義を行う。						
1．テーマ 明治立憲政治の定着 担当：池田さなえ						
政治とは、国内に存在する様々な問題を国家的観点から位置づけ、そのうち政策的解決が可能なものに対して解決策を導き出していく営みである。それゆえ、政治を見ることで、その当時の社会・経済・文化などのあらゆる側面が見えてくる。それゆえ、歴史的事象を理解する大前提として、その時期の政治について理解することが重要となってくる。						
近年、自治体や公共図書館・史料館などで史料の公開が飛躍的に進んだこともあり、明治政治史の研究は長足の進歩を遂げた。全5回の授業では、こうした最新の研究成果を踏まえ、明治政治史に関してどのようなことが明らかになり、どのようなイメージが描かれるようになってきたかを見ていきたい。						
第1回 立憲政治定着の描かれ方 「地方利益論」						
第2回 立憲政治定着の描かれ方 「地方利益論」の見直し						
Continue to 日本史Ⅰ(2)						

日本史Ⅰ(2)

- 第3回 立憲政治定着の描かれ方 藩閥政府、貴族院、「吏党」研究の深化
- 第4回 明治憲法体制の構造 天皇・宮中・枢密院と内閣
- 第5回 立憲政治と経済発展

2. テーマ: 近代日本の美術 担当:高階絵里加

開国後、本格的な西洋芸術の技法や概念に遭遇した日本の美術は、どのように変化し新しい表現を獲得したのだろうか。19世紀に大きな変革を遂げた日本の美術について、江戸から明治への社会の移り変わりや西洋画法の導入、開国と美術政策、明治前期の洋画と留学した画家たち、伝統復興運動と洋画の新傾向等のテーマをとりあげ、絵画を中心にスライドで具体的な作品を観賞しつつ考える。

- 第1回 西洋画法との出会い 江戸から明治へ
- 第2回 開国と美術 蕃書調所と初期の渡欧画家たち
- 第3回 工部美術学校と明治中期の渡欧画家たち
- 第4回 伝統復興運動と東京美術学校、洋画の発展と主題の模索

3. テーマ 学術都市・左京を考える:「文化史学」を中心として 担当:菊地暁

左京区は「大学と寺の町」と称される京都の中でもユニークな存在感を放っている。1897年に京都帝国大学が設置されたことが大きく影響しているが、それ以外にも、多くの大学、図書館、美術館、博物館、文書館が集中し、密度の濃い文化環境が形成された点が重要だろう。「新京都学派」をはじめ、さまざまな思想運動、学術運動、文化運動、社会運動がこの地を拠点に展開された。「文化史学」という領域の学問運動を中心に、その担い手と作品の様相を概観し、「左京で学問することの意味を考えてみたい。

- 第1回 「京大文化史学派」の挑戦
- 第2回 新村出の『広辞苑』に至る道
- 第3回 「新京都学派」の光と影
- 第4回 『北白川こども風土記』の世界
- 第5回 学問都市・左京の現在

授業回数はフィードバックを含め全15回とする。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

レポートによる評価とする。

Continue to 日本史Ⅰ(3)

日本史Ⅰ(3)

[Textbooks]

Instructed during class

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

テーマ1(池田)参考文献:高校で日本史を履修しなかった者は、小林和幸編『明治史講義【テーマ篇】』(ちくま新書、2018年)の第10講～19講を予習用に活用することが望ましい。更に学びたい者は、授業中に提示する参考文献を適宜参照することを推奨する。

テーマ2(高階)参考文献として、辻惟雄『日本美術の歴史』(東京大学出版会、2005)の第九章「江戸時代の美術」の三、および第十章「近・現代(明治 平成)の美術」の一と二、山口桂三郎監修『日本の近代絵画』(ブレーン出版、1996)等を予習・復習に活用することを推奨する。

テーマ3(菊地)まず、大学に学ぶ者として、佐藤郁哉『大学改革の迷走』(ちくま新書、2019年)の一読を推奨する。さらにこのテーマに関心を持つ者には、ネット連載記事「人文研探検—新京都学派のプロフィール」(<http://www.keio-up.co.jp/kup/sp/jinbunken/0001.html>)を推奨する。

[Other information (office hours, etc.)]

定員を超えた場合には無作為に抽選を行う。